

## 平成 21 年度 普及に移す農業技術（第 1 回）

[ 分 類 ] 普及技術

[ 成果名 ] キャベツ株腐病防除にアフエットフロアブルが有効である

[ 要 約 ] キャベツ株腐病防除にアフエットフロアブルの 2,000 倍液を散布する。本剤は新規系統の殺菌剤である。

[ 担 当 ] 野菜花き試験場佐久支場、環境部

[ 部 会 ] 病虫部会

### 1 背景・ねらい

キャベツ株腐病は生産現場では常発する重要病害である。本病を防除するため効果の高い薬剤を選定するとともに、キャベツに対する薬害の有無を検討する。試験は平成 17 年、18 年および 20 年に実施し、平成 21 年に農薬登録されたため、今回普及技術とした。

### 2 成果の内容・特徴

( 1 ) キャベツ株腐病の防除に、アフエットフロアブルの 2,000 倍液を散布する。

#### 農薬登録内容

アフエットフロアブル

[ 一般名及び成分含有量 ] ペンチオピラド 20.0%

[ 毒性 ] 人畜毒性：普通物 [ 魚毒性 ] A 類

[ 対象作物に対する適用登録状況（平成 21 年 9 月 24 日現在 JPP ネット確認） ]

作物名	適用病害名	希釈倍率	散布液量	使用時期	使用回数	使用方法	ペンチオピラドを含む農薬の総使用回数
キャベツ	菌核病 株腐病	2,000	100～300 L/10a	収穫前日 まで	3 回以内	散布	3 回以内

本試験は純粹に殺菌剤の効果を判定する目的のため、また、適用登録内容が決定される以前に実施したため、散布回数は適用登録の回数を超えた。

### 3 利用上の留意点

( 1 ) 本剤は、新しい作用を有する新規の殺菌成分であるが、耐性菌の出現を防ぐため、なるべく連用を避け、作用機作の異なる薬剤とのローテーション散布を心がける。

( 2 ) 散布は、結球始期から予防的に実施する。

### 4 対象範囲

県下全域

### 5 具体的データ

アフエットフロアブルのキャベツ株腐病に対する防除効果およびキャベツに対する薬害について、平成 17 年と 18 年に野菜花き試験場佐久支場内、平成 20 年に軽井沢町現地圃場において試験を実施した。いずれの試験も多発条件下での検討となった。平成 17 年はアフエットフロアブルの 2,000 倍液は対照のバリダシン液剤 5 と比較して同等の防除効果であった（表 1）。平成 18 年はアフエットフロアブルの 2,000 倍液は対照のアミスター 20 フロアブルと比較して劣るもののバリダシン液剤 5 と比較して同等の防除効果であった（表 2）。平成 20 年の軽井沢町ではアフエットフロアブルの 2,000 倍液は対照のアミスター 20 フロアブルと比較して同等の防除効果が認められた（表 3）。いずれの試験においても薬害は認められなかった。

表1 キャベツ株腐病に対するアフェットフロアブルの防除効果（平成17年、佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
アフェットフロアブル	2,000	30.0	35.5	15.2	67.2	なし
パリダシン液剤5	800	30.0	31.1	11.1	76.0	なし
無処理	-	30.0	74.5	46.3		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 場内圃場 発生状況：多発生 品種：信州868  
 定植：4月27日 栽植距離：畦幅50cm、株間35cm 区制・面積：1区14.7㎡ 84株/区 3連制  
 処理方法：6月17日（結球初期、発生無し）、23日、30日および7月7日の4回、所定量の薬液（Sハッテンの10,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり300リットル散布した。

調査方法：7月13日（収穫期）に、各区30株について発病の有無および発病程度を調査した。

発病指数 0：発病を認めない 1：外葉の一部に発病  
 2：外葉の3枚以上に発病 3：外葉だけでなく結球葉にまで発病する

発病度 = ( (発病指数 × 株数) / (調査株数 × 3) ) × 100

防除価 = 100 - ( (処理区発病度 / 無処理区発病度) × 100 )

表2 キャベツ株腐病に対するアフェットフロアブルの防除効果（平成18年、佐久支場）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
アフェットフロアブル	2,000	30.0	53.3	23.3	70.2	なし
アミスター20フロアブル	2,000	30.0	3.3	1.1	98.6	なし
パリダシン液剤5	800	30.0	54.4	20.8	73.4	なし
無処理	-	30.0	94.5	78.1		

値は3反復の平均値

試験場所：小諸市山浦 場内圃場 発生状況：多発生 品種：信州868

定植：4月24日 栽植距離：畦幅45cm、株間35cm 区制・面積：1区15.8㎡ 90株/区 3連制

処理方法：6月6日（結球初期）、13日、20日および27日の4回、所定量の薬液（Sハッテンの10,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり300リットル散布した。

調査方法：7月6日（収穫期）に、各区30株について発病の有無および発病程度を調査し、発病度、防除価を算出した（表1参照）。

表3 キャベツ株腐病に対するアフェットフロアブルの防除効果（平成20年、野菜花き試）

供試薬剤	希釈倍数	調査株数	発病株率(%)	発病度	防除価	薬害
アフェットフロアブル	2,000	36.3	25.8	17.0	68.8	なし
アミスター20フロアブル	2,000	38.3	24.1	15.2	72.1	なし
無処理	-	35.7	69.1	54.5		

値は3反復の平均値

試験場所：北佐久郡軽井沢町茂沢 農家現地圃場 発生状況：多発生 品種：若峰

定植：6月17日 栽植距離：畦幅55cm、株間35cm 区制・面積：1区11.6㎡ 45株/区 3連制

処理方法：7月29日、8月6日および13日の3回、所定量の薬液（グラミンSの3,000倍加用）を背負式動力噴霧器を用いて10a当たり300リットル散布した。

調査方法：8月27日に、各区35～40株について発病の有無および発病程度を調査した。

発病指数 0：発病を認めない 1：外葉の一部に発病

2：外葉に発病が認められ、病斑がわずかに結球葉におよぶ 3：結球葉の大部分が発病する

発病度、防除価の算出方法は表1と同じ。

## 6 特記事項

[公開] 制限なし。

[課題名、研究期間、予算区分]

東信地域の作物に対する病害虫防除試験（佐久支場）、平成17、18年度（2005、2006年度）、  
 県単素材開発

新農薬の効果検定と実用化（環境部）、平成20年度（2008年度）、民間受託